

Book Review

歯科衛生士のための最新歯周病学

加藤 熙 編著／坂上竜資・菅谷 勉・高橋幸裕・藤井健男 著

● ● ●

Reviewer

池田雅彦 Masahiko Ikeda

(北海道・池田歯科クリニック)

A4判, 230頁
オールカラー
定価 4,400円
医歯薬出版刊



歯周病（慢性歯周炎）の予防・治療において歯科衛生士の果たす役割は大きい。さらにいえば、よりよい歯周病（慢性歯周炎）の予防の効果を上げたり、治療の良好な結果を得たりするには、優秀な歯科衛生士の存在は不可欠ともいえる。

歯科衛生士が勉強する際に、ともすれば興味のある事柄だけを商業誌や論文などを読み勉強しがちであるが、歯周病や歯周病治療をより良く理解し実践するには歯周病や歯周病治療に関するすべてが網羅されて書かれている、いわゆる教科書が必要である。

海外では古くからグリックマンやゴールドマン、ランフォード、リンデなどの優れた教科書が出版されているが、本書の編著者の加藤 熙氏は、1994年の最新歯周病学を出版しており、日本において非常に優れた教科書として好評であった。

さらに2011年には、『新版 最新

歯周病学』（編集／加藤 熙，執筆／加藤 熙，坂上竜資，菅谷 勉。医歯薬出版，2011年）を刊行されている。基本的な事柄から最新の研究成果などの内容も含まれており、優れた教科書として重宝されている。

この『新版 最新歯周病学』の歯科衛生士版ともいえる本書は、2018年7月に刊行された。

歯科衛生士の教科書としては画期的な内容であり、第1章「歯周組織・歯周病の特徴を理解する基礎知識」から第9章「メンテナンス治療（メンテナンス・SPT）と歯科衛生士の活躍」まで、ぜひ隅々まで読んでいただきたい。

本書の特徴として、他書にはない歯周病に取り組むうえで大切な「心がまえ」について述べている。

私は、歯周治療を行ううえで知識と技術とともにこの治療に取り組む「心がまえ」が重要と考えている。

また本書のほかの特徴として、理解しやすくするために、大切な部分は太い文字にしたり、アンダーラインを引いたりして、重要な用語・キーワードはカギ括弧でくくるなどの工夫がなされている。

さらに、最新の情報を「ADVANCE LEARNING」としてよりレベルアップしたい歯科衛生士のために記載している。

日本歯周病学会や日本臨床歯周病学会では認定歯科衛生士制度を作っており、両学会の認定歯科衛生士を目指す歯科衛生士にも恰好の教科書として使用できる。

また歯科衛生士学校の学生の教科書としてだけでなく、臨床の現場にいる若い歯科衛生士からベテランの歯科衛生士にも役立つと思われる。

さらに、本書は歯科衛生士用として書かれているが、重要な事柄についてコンパクトに書かれているので歯科医師にも十分に有用な内容になっている。